

2024

2.28 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_ihsqnvCbSaWE27_9G1guYg

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

ゲーム理論と国際関係

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

16

平和と公正を
すべての人に

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

Key Words

国際関係

リアリズム

リベラリズム

囚人のジレンマ

スタグハントゲーム

李 鍾成 学術研究員

アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS)

韓国ソウル市出身。2005年に韓国・仁荷大学社会科学部政治外交学科を学部次席で卒業し、同大学大学院で修士課程を修了しました。その後、国立放送通信大学助教、国際関係研究所研究員として在籍しました。学部時代は日韓外務省主催の訪日プログラムに参加したことがあります。2010年に日本で勉強をしたいと思い、渡日。2018年には九州大学大学院法学府にて博士(法学)を取得しました。2017年より同大学法学部の助教に、2019年からは協力研究員になりました。2022年からは、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構の学術研究員となり、現在に至ります。研究テーマはアメリカの外交と日米関係、そして国際関係理論で、とりわけ国際関係理論で国家関係を分析する作業を行っています。

国際社会の諸現象を理解するにあたっていくつかの視角があります。その中でもリアリズムやリベラリズムが代表的な分析視角と言えます。リアリズムは国際社会の無政府性に注目し、人間の利己心や国家のパワーによる国家関係を捉えようとしています。一方、リベラリズムは国家間の協力を重視し、人類全体の利益(平和)と国家間の協力という観点で国際社会を理解しようとしています。このような視角はゲーム理論に密接に関係しています。講演では、ゲーム理論を紹介し、近年の国際 이슈についてお話しします。